

【「んぎつね」授業記録⑤】

兵十が赤い井戸のところを歩いていました。

T 今、ここに兵十がいます。井戸のところを歩いていきます。それを通りかかったごんが見ました。このとき、こんな兵十の姿は、ごんはどんなふうに感じて見えたでしょうね。

どんなに見えたでしょう。……

いつもと同じ兵十に見えたか、違って見えたか。

C 違う

T ほう、義昌は違う兵十……はい、まいちゃん。

麻衣子 さみしそう。

T さみしそうだなって見えた。

寿子 ただ、麦をといでいるだけなのに、背中がすごくさびしそう。

T おっ、なんて言った？今の聞こえた？背中が何だって

寿子 背中がすごくさびしそう。

T 麦をといでいる兵十の背中がさびしい。

あ、えりちゃん。

恵理子 一生懸命、なれてないことをしている。

T 一生懸命、慣れてないことをしてる。

C えっ？

T すごいこといったぞ。今のえりちゃんのわかった？

宏 わかった今までは

T ああ、ちよっと待って。えりちゃん感じられる人あるかい？

祐介 今までおっかあといっしょに暮らしてたのがな、突然死んでしまったからな、おっかあがいいひん暮らしにまだ慣れてない。

T ああ……。

今、祐介が言って、恵理ちゃんが言ったことわかる？。

なんかこの、今兵十が麦といどるのが、今まではどうやったって、

義昌 二人暮らしでおっかあが

T うん、今までは、おっかあがしてやったんやね。そんなことは毎日おかあさんがしていた。ところが、突然死んで、兵十が今までのことのないことを慣れないぶきつちよな手つきでやってるのを見てる。

義昌 なんかな おっかあはうなぎをたべたいたべたいで。寝てるんやで、その間ちよっ

とはやってるんやで慣れてるはずや。

T ああ。それはそうかもしれないけど、今恵理ちゃんが言っているのはね、今まではお母さんの仕事やったのを兵十がせんならんようになった。そんなのを見たときに、そういう姿を、ごんは今まで見ていたの？

安裕 見てへん。おっかあがやってて、兵十は畑仕事とかやってた。  
T そうやろうな。

じゃそういうふうには、今まで見たことのない、麦を研ぐなんて姿を見たときに、ごんはどんな気持ちになるでしょうね。て、もう少し考えられる人ない？

康治 えつとな、いつも通りかかっているときはおっかあがやってるけどな、兵十がやってるからな、きのうのこととか、葬式のこととか、いたずらをしたことが浮かんでくる。

T 和寿、言うたれ。これを見ると葬式のことを浮かんでくるって。

和寿 きのう、きのうやったつけ、葬式。いつも兵十のおっかあがやってたんやけど、それがな、おっかあが死んで、兵十しかいんようになって、変わってしまった。ほんで、自分のせいでしんだんやなあと思った。

T 今ごちやごちや言うてるけど、智美ちゃん、言うたり。

何か、これ見ると、自分のせいやなあ、って思えてしまう。……

安裕 葬式のことを思い出したりしてしよんぼりしてしまう。

T おれのせいでこんなにしちやったのかなあ

ほんでいい。……

そのときに、こう言っていますね。

「おれと同じひとりぼっちの兵十か」

自分自分で読んでみて。この言葉を

T 勇太読んでみて

勇太 読む

T 終わりが下がったね。

和寿

T おまえもやっぱり「か」にため息が入ってるね。

じゃ、ここからどんなごんの心が感じられる？

……

清貴君

清貴……

T 誰か……

「おれと同じ」って何が同じなの？

清貴 一人で暮らしているところ。

T この同じっていうのは、一人で暮らしているのが同じだなあって。

おっ、北斗君。

北斗 自分も一人で、一人の気分がわかっているからな、悪いことしてしまったなあと思う。

T 何やて？自分も一人ぼっちやで気持ちかわかる？

北斗君はこんなこと言っていますね。「ひとりぼっちの気持ちがわかる」

俊之、何が言いたいの？

俊之 一人でな、暮らしててなさみしい。誰も遊ぶ相手がいいひん。

T ほう、さみしいのがいつしょ

和寿 はいはい！

今さつき寂しいって誰がいったん？ とっちゃんのに似てるんやけどな、今までもさびしかったのにな、おつかあが死んでしまっただけからよけいさびしくなっただけもたん。ほんで、よけい落ち込んでしまっただけ、かわいそうになるの。

T さびしさがな、和寿ましてくる。

T 今までよりよけいさびしそうな兵十に見えてくる。

はい、めぐみちゃん

めぐみ 一人ぼっちで頼る人がいいひん。

宏 さびしさと似てるんやけどな、元気良さとかがない。

T 今、「おれと同じ」を考えてるときに、こっただけ中身がでていますね。

これから一人で暮らしていくんだな、おれと同じ一人ぐらしやな。

頼る人もなくなっただけさびしいのがいつしよだなあ。

それから、しょんぼりと元気がでん、一人やったら元気が出ん。

康治 同じやけど、兵十の方がつらい。

ごんは、いたずらしてるからちよつとは楽しいけどな、兵十は、人間やからな、何もすることがないし、仕事しんならんし、おつかあがいんから、寂しい。

和寿 どういう意味

T もういつぱん言うたれ

康治 えっと、ごんは、いつもいたずらしてるから楽しいけど、兵十はおつかあもいんし、仕事しんならんから、つらいし、さびしい。

T こういふことか、おれと同じひとりぼっちの兵十か、て、「同じやな」て思いながら、よけい、兵十の方がおれよりもつらいだろうな。おれは、うさをはらしてるけど、兵十はそんなことしよらへんやろ。よけい、ぼつんとしとるんちがうかな。

そういうこといつてるんやね。義昌

義昌

兵十の方が一人でしゃべる人もいいひんから

安裕 お

俊之 やっちゃんがいたいことで、ごんは生まれたときからお母さんがいいひん。兵十はな、お母さんがいるんや。おとなになっただけからしなっただけさかい、さみしいのがよけいさみしい。

T 兵十の方がよけいつらいって。

めぐみ、ごんは子どもの頃からお母さんがいいひんさかい、もう慣れてるけど、

俊介 ごんはな、生まれたときからお母さんがいいひんかったけどな、兵十はもう大人になっただけ顔も覚えてるのに、そのときに死んでな、ごんはな見てないからな、いいひんかっただけ一人でやってたからやることもあるけどな、大人やからおこられる。

T ごんは、生まれたときから一人や。ところが、兵十は、おつかあと貧しいけど、おつかあ二人で生きてきて、ここから一人

清貴 今までおっかあと二人で暮らしてきて急に死んだからショックが大きい。

T おっかあの今までの思いであるから、一人になったら、つらさもよけい身にしてみるだろうなあって。ごんはずっと一人でおるから、そんなこと忘れてるかもしれないけどね。

康治 やっちゃんのつけたしやけどな、ごんは、小さいときからお母さんがいいひんからべつに何ともおもわへんけど、兵十は、完全に分かるようになってからしなはったからな、一人の生活に慣れてない。

T だから、一人ぼっちの姿が、よけいに

T もう一つだけここで聞きたい。

ここで、「おれと同じ一人ぼっちの兵十か」て、見てますね。

今までもいたずらしたときなんか、「兵十だな。」てのぞいてますね。

あんなふう兵十を見ていた目と、ここで兵十を見ている目は、同じでしょうか、何か変わってきていることはあるでしょうか。

今まで兵十を見ていた目と何か変わった来たことはない？

どうでしょう……

おんなじ？

C ……

康治 今まではな、えっと何ともなしにいたずらして、最後にどうなつてもしらんかったけどな、今度はな、慣れてるしな、それに自分が人殺しになつてから、もうほつとしていられへん。

T ほれ？今までは、いたずらしても知らんつて相手やったんやけども、て言つてやる。

C ……

康治 今まではいたずらしてもしらんふりしたり、逃げたりしてたけども、それ